

# 1. 評価報告概要表

作成日 平成20年10月10日

## 【評価実施概要】

事業所番号	1174300507
法人名	ケアサプライシステムズ株式会社
事業所名	グループホームやまぶき
所在地	〒367-0026 埼玉県本庄市朝日町1-14-3 (電話) 0495-24-8677

評価機関名	社会福祉法人 埼玉県社会福祉協議会 福祉サービス評価センター
所在地	〒330-8529 埼玉県さいたま市浦和区針ヶ谷4-2-65 彩の国すこやかプラザ
訪問調査日	平成20年10月8日

【情報提供票より】(平成20年9月20日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成13年3月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 4人, 非常勤 1人, 常勤換算 6.9人	

### (2) 建物概要

建物構造	木造平屋造り 1階建ての1階部分
------	---------------------

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	54,000 円	その他の経費(月額)	15,000円 + 実費
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	200 円	昼食 300 円
	夕食	300 円	おやつ 60 円
または1日当たり 860円			

### (4) 利用者の概要(9月20日現在)

利用者人数	9 名	男性	3 名	女性	6 名
要介護1	0 名	要介護2	4 名		
要介護3	5 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 90 歳	最低	82 歳	最高	94 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	中村医院、もろおか歯科クリニック
---------	------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、JR本庄駅から徒歩10分、住宅街の一角にあるデイサービスが併設された平屋の建物である。法人は、住み慣れた地域と共に暮らすことを大切に、1ユニットのグループホームを群馬県を中心に各地に開設している。職員研修を積極的に行い、法人内研修はもちろん、外部研修にも職員が参加し資質の向上に努めている。ホームは定期的開催されている運営推進会議をもとに地域とのつながりを築き、民生委員や自治会等も協力的である。定期的に訪れるボランティアグループもある。職員や利用者も地域の行事や自治会の清掃活動などに積極的に出かけている。また、ホームには管理栄養士と栄養士があり、おやつも手作りのものが提供されたり、誕生日を迎えた利用者の希望を取り入れた食事が提供されている。

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>終末期に向けた対応はまだ考えていないとのことであったが、利用者の個別のニーズに応じて終末期近くまで対応している。しかし、まだ職員間での方針の共有までには至っていない。その他、前回の外部評価で課題に挙げられた項目に対しては、改善に努め取り組んでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価を活かしながら、職員が分担して全員で評価に取り組んだ。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>2か月に1度、定期的に運営推進会議が開かれている。会議では、民生委員や自治会のほか家族からそれぞれ複数の参加を得て、ホームから毎回議題を提供して意見交換が行われている。なお、行政や地域包括支援センターにも参加を働きかけているところである。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>家族へは定期的にホーム便りが送られている。家族面会時は、家族が職員に気軽に質問したり伝えることができるように心がけるとともに、細かく利用者の様子を伝えている他、必要時はそのつど、担当職員から家族に連絡をしている。また、運営推進会議には家族も参加し、ホームへの要望や意見などを伝えられるようにしている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に加入し、回覧板でホームの様子を伝えたり、清掃作業やお祭りなど自治会の活動に参加して、地域との交流が行われている。また、運営推進会議等で災害時に協力しあえるよう話し合うなど連携を図っている。</p>

## 2. 評価報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	高齢者が地域で暮らせるようにと、地域にホームを作っている法人の理念を基に、職員間で話し合い「住み慣れた地域で安心して暮らせるように尊厳や個性を大切に、その人らしく生活できるように」という事業所独自の理念を作り上げている。		
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	連絡ノートを活用したり、声を掛け合いながら理念を共有し、職員がチームワークをもって気持ちよく過ごせるよう努めている。		
2. 地域との支えあい					
	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域で行われる消防訓練やお祭りに参加している。また、自治会の清掃活動にも積極的に参加するとともに、回覧板を通じてホームの様子を伝えながら地域との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を理解した上で職員全員が評価にかかわりながら取り組んでいる。職員は分担して自己評価を行い、前回の自己評価で改善に挙げた点についても取り組んでいる。		
	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2か月に1度定期的で開催されており、自治会や民生委員が交代で1回に複数出席している。また、会議では防災訓練や高齢者虐待などテーマを決めて話し合ったり、地域の活動、玄関の施錠のことが議題に挙がり活発に意見交換している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	毎月市の担当者を訪問し、運営推進会議で話し合われたことや定款変更などの報告等を通じて市との連携を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に一度は出納帳の報告をし、年に4回ホーム便りを発行して送付している。遠方の家族以外は、利用料をホームに支払いに来ることになっているため、来訪時に必ず利用者の健康状態や様子などを伝えている。その他面会に来られない方や必要に応じて随時、担当職員が電話等で連絡をしている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には家族が職員に気軽に話ができるような雰囲気作りを心がけ、運営推進会議にも家族に参加してもらい意見を表出できるように努めている。家族の中には面会カードに一言書いてくれる方もいる。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入職の時には、新任職員のことをホーム便りで報告している。また、退職時は、利用者へダメージを与えないように配慮しながら個人的に利用者へ伝えている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	1年に1度は職員を対象とした研修がある。法人内研修及び外部研修などに積極的に参加し、職員会議時に研修報告を行って情報の共有に努めている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会の地区別研修などの場を通じて交流している。また、市内にある近くのグループホーム2～3か所とも連絡を取り合っており、情報交換をしながらサービスの質の向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に本人や家族と面談を行い、1～2時間ホームで過ごしてもらっている。生活歴を聞き取ったり、ケアマネジャーから情報を得たりすることでスムーズにホームの生活に溶け込めるように工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員が利用者から教えてもらうこともある。一方、職員は利用者に寄り添い、不安な気持ちに対して安心感を与える声掛けをするなど、お互いに支えあう関係を築いている。		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	月1度の職員会議で、本人の希望や様子について話し合っ意向の把握に努めている。また、会話の中からも本人の気持ちを理解するよう努め、穏やかな生活が送れるように支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当職員が日々の様子を観察し、利用者の変化をチームで共有しながら、介護支援専門員と一緒に話し合いの上、介護計画を作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	1か月に1度、担当職員がアセスメントを取り直し、前回と違っている場合はプランの変更をするとともに、モニタリングも3か月に1度行われている。また、変化のあった場合は、そのつど計画の見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設されたデイサービスで行われるボランティアによる催しにホームの利用者が参加したり、デイサービス利用からホーム入所に至る方もいる。また、利用者の希望に応じて送迎等の必要な支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医師を昨年より外科から内科に変更した。協力的であり、適切な医療機関に結び付けてくれる。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化してきた方も医療的処置を必要としない場合はホームでぎりぎりまで看ている。実際、経管栄養から経口栄養に切り替えて退院したばかりの利用者で、居室で食事を摂っている方もいる。しかし、職員全体の方針の共有までには至っていない。		話し合いを重ね、ホームで対応し得るケアなどを分かりやすく説明できるようにすることが、職員間の意識の共有になり、家族からの信頼を得ることにもつながる。法人内で看取りをしたホームが現在報告書を作成中であり、教育や研修に熱心に取り組んでいる法人であることから、今回のケアを方針の共有に活かされることが期待される。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人の写真をホーム便りに載せたり、玄関には名前入りでホームの利用者が紹介されている。また、長い間築いてきた利用者との関係が家族的で、お互い気にしていない面もあり、一部目立つ言葉掛けや対応がある。		当事業所のホーム便りは地域にも配布されることもあり、個人情報の取り扱いについて再度検討することが望まれる。また、親しみをもって接することは大切なことであるが、利用者によりよい関係を保つためにも、日々の関わり方を時折確認しながら支援されることが期待される。
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースや希望にできる限り沿えるよう支援している。例えば、定期的に訪問してくれる理美容があるが、利用者の中には他を希望する方がおり、その場合は職員が電話で予約を入れて送迎をするなど、柔軟に対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	おやつも含め、食事は職員による手作りのものが提供されている。また、利用者は力を活かして、お絞りたたみや食器拭きなどを行っており、職員も利用者と会話をしながら一緒に食べて、楽しい雰囲気の中で食事の時間を過ごしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	デイサービスセンターと共同で浴室を使用しているため、時間帯が限られることもある。また、浴槽も大きい個人希望に合わせた時間に沸かして入るといわけにはいかないが、極力本人の希望を聞き、順番などに配慮しながら入浴が楽しめるように工夫している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入所時に家族から聞き取った生活歴を基に利用者一人ひとりに合わせ、新聞取りや洗濯物たたみ、お絞り丸め、お茶碗拭きなど、ホームで役割を持てるように支援し、張り合いのある生活作りに努めている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	行事のとき以外は、殆んど出かけずにホームの中で過ごすことが多い。ホームの構造も、平屋建てにもかかわらず吹き出し窓がなく、出入り口は鍵がかかっているため、利用者は自由にホームの庭に出ることもできない。		毎月訪問してくれるボランティアに協力してもらい散歩をしたり、玄関から自由に入出入りすることでホームの庭の草花を楽しんだりするなど、できるだけ戸外に出かけられるように工夫した取り組みが期待される。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	デイサービスセンターと兼用の玄関は、デイサービス利用者への配慮もあり常時閉められている。また、職員は、利用者がデイサービスセンターや事務室、浴室等へ入っていくことを懸念している。しかし、ホームから廊下への出入り口については、時間帯によって鍵を開けることに取り組み始めている。		利用者が入ると危険を伴う浴室等には鍵をつけるなどして対応し、廊下の鍵を常に開けられるような工夫が望まれる。また、ホームは穏やかな住宅地であり、地域の方とのふれあいも考慮に入れて、外の玄関の鍵をかけずに安全に過ごせる工夫を重ねていくことが期待される。
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	運営推進会議で、地域の方の協力を呼びかけている。また、民生委員や自治会の方もホームに理解を示して協力的である。避難訓練は年に2回実施しており、うち1回は消防署に来てもらって実施している。なお、利用者の常用している薬は非常時に持ち出しができるようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別の記録となっており、食事や水分の摂取量のチェックが行われ、職員間で栄養や飲水量がどの程度摂れているか確認がなされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所がよく見えるリビングで、食事のできる音やにおいを感じながら過ごしている。テレビの近くにはゆったりしたソファが配置され利用者が寛ぐことができ、天井が高く、明るいろリビングである。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室8畳のスペースがあり、三面鏡やテーブルなど使い慣れた好みのもがそれぞれ置かれている。他にも、家族の写真を飾ったり自分の作品を置いたりすることで、その人らしい居室作りがなされ、本人が居心地よく過ごせるようにしている。		